

国労東日本電気協議会情報

No, 7	国労東日本本部 電気協議会
06-01-15	発行責任者 議長 斎藤伸明
発行日	編集責任者 事務長 高橋広

迎



春

新年のご挨拶を申し上げます

国労組合員、ご家族の皆様には2006年の年明けに 国労東日本本部電気協議会より今年一年の活動の方向について述べさせて頂き新年の挨拶とさせていただきます。

来る2月4日第18回電気協議会定期委員会を開催し 組織としての意思統一を行い 国労運動の活性化と組織拡大に向けて力強く踏み出して行く決意です。

皆さんの理解とご協力をおねがし新年の挨拶とさせていただきます。

昨年のJR関係について少し考え方を述べておきたいと思います。4月に西日本では福知山線で、12月は東日本の羽越線で脱線転覆事故を起こし乗客の命が奪われました。私達の職場は「人の命を預かっている鉄道」という特殊な職場です。鉄道で働く私達にこの二つの事故は多くの課題を投げかけていると思います。労働組合の立場、職能協議会の立場から「利用者の命を第一にする鉄道設備」を構築するということで、今後も精一杯闘いたいと思います。

国労東日本本部は「設備メンテ」合理化提案を受けた時に要求の中で、職場には多くの問題点があることを指摘してきました。職場に於ける労使関係から国労だけの闘いで問題が解決していくとは考えられませんでした。ですから国労は自分達が安全に働き続けられる職場環境をつくることです。この活動は“鉄道の安全を信頼して”移用している人の命を守ることに繋がるからです。列車を安全に運行するために色々なシステム・装置が設置されています。しかし全てのシステム装置が列車運行に直接連動していません。私達職能協議会の立場からこうしたことを含めて要求書を機関に提出しました。要求書を提出してかなり時間が経過しています。再度検討して内容を豊富化して団体交渉で問題解決の糸口を掴みたいと思います。その為に職場実態のメモが活動を全組合員で取り組んで頂きたいと思います。

次に国内の政治情勢と国鉄闘争の関係です。国鉄「民営分割」攻撃の狙いは元中曽根首相が公言しています。そして平和憲法「改正」をすることです。この事を成し遂げるために「国労を壊滅」することが必要であったのです。今年、自民党は「改正」のために色々な前段攻撃を準備してきています。こうした流れを阻止するために私達は何をするかではないかと思えます。現在の私達の生活実態に色々な問題はありますが、しかしこれも今日平和が守られているから保証されていると思えます。私達の闘いは国鉄の民営分割化への反対の闘いでもありましたが、平和を守り憲法を守る闘いとも連動していたと思えます。この事に自信を持って良いのではないかと思えます。そして自分ができること、続けられることを見だして頑張ろうではありませんか。こうした闘いの中心に国労が存在するという活動をしようではありませんか。今年も皆さんと共に精一杯の活動を展開していくことを述べて新年の挨拶とします。

(写真提供 東京通信技術センター 加藤英樹)